

- ① …「第10回埼玉県第4種サッカーリーグ」開幕・天皇杯埼玉県代表は2年連続、東京国際大学
- ② …熱中症対策のガイドラインについて～2016年度第1回運営会議～・施設委員会より
- ③ …キーワードは「組織力向上」と「連携」2016年度に向けて委員長インタビュー／岡田泉審判委員長
- ④ …強化？グラウンド確保？社会人リーグを1種リーグに～1種委員会座談会～
- ⑤ …～1種委員会座談会～
- ⑥ …大会記録●県内大会 1種・2種・3種
- ⑦ …大会記録●県外大会 4種・女子
- ⑧ …インフォメーション 技術委員会/審判委員会/JFAガールズサッカーフェスティバル開催・編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

## 「第10回埼玉県第4種サッカーリーグ」開幕

4月9日から「第10回埼玉県第4種サッカーリーグ」が開幕しました。今年は55ブロック484チームによって開催されることになりました。今年のトピックは、少女チーム18チームが2ブロックに分かれて参加することになったことです。各ブロックを勝ち上がった少女チームは、「4種選手権大会」では少年チームと対戦することとなります。きっと、双方に刺激のある試合となることでしょう。少年チームにも少女選手は多く増えており、積極的な交流をすることで、更なる底辺が広がることを期待しています。

リーグ戦はホーム&アウェイですので2度同じチームと対戦します。子どもたちには、トライすることで成長してほしいと願っています。指導者の皆さんの働き掛け次第です。よろしくお願いします。



## 埼玉県代表は2年連続、東京国際大学 ～平成28年度彩の国カップ 第21回埼玉県サッカー選手権大会～

3月20日に「彩の国カップ」決勝が行われ、東京国際大学がFC TIUを3対1で下し、優勝しました。これにより、東京国際大学は埼玉県代表として、第96回天皇杯全日本サッカー選手権大会に出場することになりました。

なお、平成29年度から「天皇杯全日本サッカー選手権大会」は4月から開催されることになりました。今後、彩の国カップだけでなく、全国的に天皇杯予選は3月下旬に開催することになりましたので、よろしくお願いします。



優勝 東京国際大学体育会サッカー部

## 熱中症対策のガイドラインについて ～2016年度第1回 SFA 運営会議～

5月7日に2016年度第1回 SFA 運営会議を開催しました。今回は、JFA競技運営部の西澤和剛部長をお招きし、3月にJFA理事会で決定された「熱中症対策のガイドラインについて」の意見交換を行いました。

**熱中症対策のガイドラインの概要**……[http://www.jfa.jp/about\\_jfa/report/PDF/k20160310\\_6.pdf](http://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/k20160310_6.pdf) 参照

### 【大会 / 試合スケジュールの規制 (事前の準備)】

大会 / 試合を開催しようとする期間の各会場(都市)における、過去5年間の時間毎のWBGT(暑さ指数)の平均値を算出し、その数値によって大会 / 試合スケジュールを設定する。必要に応じて、試合時間を調整して早朝や夜間に試合を行う、ピッチ数を増やす、大会期間を長くするなどの対策を講じる。

※過去のWBGT値は環境省『熱中症予防情報サイト ([http://www.wbgt.env.go.jp/record\\_data.php](http://www.wbgt.env.go.jp/record_data.php))』からダウンロードできる。

■ WBGT=31℃以上となる時刻に、試合を始めない。(キックオフ時刻を設定しない。)

■ WBGT=31℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は、事前に『JFA熱中症対策 ※1<A>+<B>』を講じた上で、試合日の前日と翌日に試合を行わないスケジュールを組む。

■ WBGT=28℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は、事前に『JFA熱中症対策 ※1<A>』を講じる。

▽クーラーが無い体育館等の屋内で試合を行う場合も、上記と同じ基準で対策を講じる。

▽屋根の無い人工芝ピッチで試合を行う場合は、天然芝等と比べてWBGT値の上昇が見込まれるため、上記の値から-3℃した値を基準とする。

-WBGT=28℃以上となる時刻は、屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しないとする『JFA熱中症対策 ※1<A>+<B>』を講じなければならないため、使用不可とする。

-WBGT=25℃以上となる時刻が試合時間に含まれる場合は事前に『JFA熱中症対策 ※1<A>』を講じる。

これらの規制・対策以外にも表面温度の上昇による足底部の低温やけどや擦過傷の危険性を考慮すること。

### JFA熱中症対策 <A>

- ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。  
※ 全選手 / スタッフが同時に入り、かつ氷や飲料等を置けるスペース。  
※ スタジアム等に備え付けの屋根が透明のベンチは、日射を遮らず風通しも悪いため使用不可。
- ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。  
※ 天然芝等の上でも、養生やバケツの設置等の対策を講じて

スタジアム管理者の了解を得る。

- 各会場に WBGT 計を備える。
  - 審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
  - 観戦者のために、飲料を購入できる環境(売店や自販機)を整える。
  - 熱中症対応が可能な救急病院を準備する。特に夜間は宿直医による対応の可否を確認する。
  - [Cooling Break] または飲水タイムの準備をする。
- JFA熱中症対策 <B>**
- 屋根の無い人工芝ピッチは原則として使用しない。
  - 会場に医師、看護師、BLS(一次救命処置)資格保持者のいずれかを常駐させる。
  - クーラーがあるロッカールーム、医務室が設備された施設で試合を行う。

すでに各方面で新年度の日程調整は終わっている中でガイドラインの発表でしたので、出されたガイドラインに対して、どのように取り組めばいいのかということが大きな問題でした。埼玉県内の場合、この数年の実績では7月と8月の日中のほとんどがWBGT=31℃以上になっています。

西澤部長からの説明の中から気になったことは「<B>」に関しては、JFLやなでしこリーグでも対応できないので、かなりハードルが高い」とのことでした。

また西澤部長からは、キックオフ時間の繰り上げ、繰り下げなどの取り組みを提案されましたが、県レベルでは施設的に対応できるグラウンドが多いとは言えません。また夏場に全国大会を行うために、6月前後はその予選が県内でも開催されますが、5月末から6月は体が暑さに慣れていないために、7月、8月同様の対策が求められます。ですから、県内だけの自助努力だけでなく、JFAさらには高体連、中体連を含めた全国大会の開催時期の見直しを核とした抜本的な改革が急務だと考えています。

横山会長からは「このガイドラインは『命が大事だから作った』という話ではなく、責任問題から起因しているもの。『これを守れば絶対大丈夫です』というガイドラインを作らなければ意味がない。また『できる限り対応してほしい』というのは、おかし。今年、何かあったらどうするのか? 説明が必要ではなく“精神”が必要だ。JFAから6月から9月はサッカーをするなどと言ってくれたほうがわかりやすい。」

この会議を踏まえて、各連盟でどのように対応するのかを検討していただくことになりました。少なくとも埼玉県内では、「大会のため」ではなく「選手たちの命を守る」という観点から日程調整をしていきたいものです。

## 施設委員会より ～天然芝・人工芝におけるスポーツ飲料の影響

天然芝に糖分の高い飲料をこぼすと、栄養過多で芝は枯れてしまいます。人工芝もスポーツ飲料をこぼすと、人工芝が変色したり、ゴムチップが変質し硬くなる場合があります。

スポーツ飲料を50%以上に薄めた場合、天然芝でも人工芝でも多少影響はありますが、飲水は可能とされています。実際には各競技場のルールがありますので、主催者が会場毎に確認してください。

現在、確認してされている競技場は、

- 埼玉スタジアム  
メイン・第2・第3・第4とも、50%以上に薄めれば可(ただし、事前に許可をもらう)。
- 浦和駒場スタジアム  
メイン・サブグラウンドとも、50%以上に薄めれば可(ただし、事前に許可をもらう)。  
なお、陸上の走路上でのスポーツ飲料の飲水は禁止。
- NACK5スタジアム大宮  
50%以上に薄めれば可(ただし、事前に許可をもらう)。
- 堀崎グラウンド  
50%以上に薄めれば可(ただし、事前に許可をもらう)。
- 秋葉の森

水以外は禁止。ただし、ベンチ内のスポーツ飲料は可。

- 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

50%以上に薄めれば可。

(ただし、事前に許可をもらう)。

なお、陸上の走路上でのスポーツ飲料の飲水は禁止。

### その他

・試合が終わった後、飲水ボトルの中身をそのままピッチに撒く行為が見かけられます。このような行為は止めてもらいたいと競技場から言われています。

・天然芝・人工芝とも副審サイドの痛みが多いです。できる限り副審はトレーニングシューズでできないでしょうか。



北ゴール内の芝生の傷み(7月26日埼玉国際ジュニア大会)

# キーワードは「組織力向上」と「連携」

## 2016年度に向けて委員長インタビュー／岡田泉審判委員長

新年度を迎える中、新たな取り組みを目指すことにした審判委員会について、岡田委員長に話を伺いました。

### 「組織力を上げる」ということ

—先日の上級委員会において、審判委員会内に「部会」を設立することを承認されました。組織改革ということでしょうか。その意図をお聞かせください。

**岡田** 今回、7つの部会を承認していただきました。総務部会、指導者部会、強化部会、育成部会、登録普及部会、競技部会、フットサル・ビーチサッカー部会です。

意図としては2つあります。一つは、SFAの中にいろいろな委員会がありますが、どれも組織立っているかと聞かれると、正直、見えてないところもあります。私が副会長ということもありますが、審判委員会そのものが「オープンにやっていますよ」ということを知ってもらおうと、審判委員会自ら発信しようと思ったからです。残念ながら、いくら人が多くいても、また能力の高い人が集まっても、「組織」にならなければ、やろうとしていることが大きくなっていきません。

もう一つは、これまでの審判委員会の中で、昨年までの組織がこれまでの中でも最も組織立っていたと思うのですが、仕事量が多くなったのでさらに細分化をしたいと思ったからです。ただ、だからと言ってその部会だけに「お任せします」ではなく、部会と部会で連携してくれることを期待しています。このコラボが、組織力を上げてくれるのではないかと期待しているところです。

あとは当然ですが、一人の人がリタイアしたら、滞ってしまうようでは「組織」とは言えません。そのケアもありますし、審判委員会だけではなく、SFAそのものが「これからどうすればいいのか」という段階に入ると思われます。そういうことを考えて集約する必要があると考えているのです。

—審判委員会の活動を刷新することで、他の委員会が刺激を受けてくれることを願い、さらにはSFAそのものの活性化も目指しているということですね。

**岡田** 情報伝達も議論にしても、何事もオープンにしなければなりません。思うのです、それぞれの委員会が何をやっているのか？と。それぞれが組織立って活動することによって、もっといいサッカーができるようになり、いい選手が出て来るのではないかと考えています。

—大きな話になりますね。そもそもですが、他の委員会はともかく、審判委員会内には以前から「部会」はありましたよね。

**岡田** 外から見て、何をやっているかわかりましたか？もちろん活動していましたが、例えばわざわざ理事の皆さんには報告していませんでした。だから皆さんは、わかっていただけでなかったと思います。それをこれからは理解してもらおうということです。こういうトライが今後に向けたトライということでしょうか。

あとは仕事の増加に伴う細分化して対応しようと思っていますが、ある程度は部会長に委ねようと思っています。委員長の私も、副委員長の濱さん(哲也氏)も部会に所属して、限られた予算の中での効率を上げていきたいと考えています。当然、部会長の考えに従います。ただ、先ほども言いましたが、それぞれの部会は独立したものではなく、他の部会と協力して事業を進めてほしいと願っていますし、それこそ他の委員会や連盟などの組織と連携してほしいのです。

### 審判の質の向上こそサッカーの質を向上させる

—具体的に進めていきたい事業を例にして説明していただけませんか。

**岡田** 3、4級のレベルアップが急務と考えています。これは登録普及部会にお願いすることになるのですが、SFAの内部組織である「4地域連絡協議会」を通じて、全市町FAを取り込み、情報をスムーズに伝達する必要性を感じています。市町FAと連携

することで、もっと裾野が広い審判のピラミッド化ができるのではないのでしょうか。審判登録者は約2万人もいるのです。トップレフェリーを目指すのはユース審判や大学生だけでなく、それぞれの地域にいると思うのです。人材の育成・発掘をどうしていくのか。登録普及部会が中心になって、他の部会にも考えてもらいたいのです。

もう一つ。これまでの指導部会は、4級審判を3級に、3級審判を2級に昇格させることが仕事でした。でも、それだけでは“組織”としてイマイチなんです。各市町FAに審判インストラクターを1名以上置くことを目標に掲げてきました。特に4級から3級を目指す際、各市町FAの審判インストラクターの推薦が必要としていました。やはり「いいな」と感じるができる“目”が無いとピックアップできません。またそういう人が地域の一人はいてくれないと、こちらが言っていることを理解していただくことが難しいということもあります。ここからは反省でもありますが、まだ審判インストラクターがいない市町FAがありますし、審判インストラクター講習会を開催しても、インストラクターというステータスに甘んじていらっしゃるせいなのか、講習会への出席率は高くないのが現状です。

実際には昨年、JFAが始めたレフェリーキャラバンを早々に開催していただきましたし、今年もJFAが掲げる審判アカデミー構想にも協力していると考えています。

サッカーそのものをよくするために、とにかくボトムアップをしなければならないと考えています。

—サッカーの質を上げるには、審判の質を向上させることが急務だということですね。

**岡田** 当たり前のことです。選手がいないと試合ができません。

これは個人的に思っていることですが、サッカーの技術はトレーニングを通じて指導者は教えられるのですが、サッカーそのものは指導者がレフェリングを通じて教えるものではないのでしょうか。低年齢の子どもたちには特に感じますね。そのためには、審判の度量の大きさが重要です。

では、今の審判委員会のメンバーは、試合を通じてサッカーを教えられるか？と聞かれたら、教えられないかなと思うのです。もちろん、選手にアドバイスしても、その言葉に感じるかどうかは、選手次第ですけどね。

—指導者は試合のときにはピッチに入れないことを考えると、「サッカー」そのものの指導となると、審判の関わり方が重要ですね。

**岡田** そうしたことだと思っています。

そういうことを踏まえた事業が「アフター10」です。4種の試合に限ってですが、試合後、しかるべき人に両チームの指導者と審判を交えて、試合を振り返ってもらっています。担当できる人は指導者ライセンスと審判インストラクターの両方を持っている人に限られているので、非常に人数は少なく、決勝大会の上位カードしかできていないのが現状です。一番重要な市町大会でできないのが残念です。本来は技術委員会と連携して行いたい事業なのですが、現状では単独で行わざるを得ず、今のままだと審判インストラクターに指導者ライセンスを取ってもらって進めていくしかないのかなど。福田技術委員長とは話し合いをしていきたいと思っています。

—やはり、連携が必要ですね。

**岡田** そうです。様々な可能性や力を持つ人たちが結集することで、まだまだ埼玉のサッカーは発展する基盤を持っていると思っています。だから、組織化が急務なのです。そして「埼玉サッカー」というブランディングを目指したいものです。



岡田 泉 審判委員長

# 強化?グラウンド確保?社会人リーグを1種リーグに ～1種委員会座談会～

この4月、1種委員長に県大学連盟の代表理事である植松孝博氏(尚美学園大学)が就任しました。6月に県社会人連盟の会長に就任が内定している富岡孝三氏(現、県社会人連盟副会長/川口SC代表)と、「1種」の現状とこれからについて語っていただきました。

## 大学生チームが社会人リーグにいてもいいのか?

—まずは植松さん、1種委員長就任、おめでとうございます。

**植松** ありがとうございます。1種は社会人、自治体、そして大学のカテゴリーを登録上、総称した集まりです。この三者がどのようして協力して発展させていくかが大きな課題になると思っています。

現状としては、10年前であれば社会人と大学と言えば、本当にお互いが遠い存在でした。それが大学側からの見方ではありませんが、県社会人連盟さんは我々に対してよくしてくださっています。かなり距離感は縮まっていると思います。今後も仲良くというか、一緒になってこの「1種」のカテゴリーをサッカー的に強く、よくしていきたいと思っています。

埼玉県は、この「1種」の登録者数も多く、「レッズとアルディージャに続け」ではないのですが、アマチュアとしてもナンバーワンとなるようアピールできればいいですね。そのためにも、まずは県民の皆さん、子どもたちに対して「1種」の認知してもらえるように努力しなければなりません。

—ありがとうございます。富岡さん、この植松さんの言葉を受けて、社会人連盟から見た「1種」についてお話を聞かせていただけますか。

**富岡** 改めて、植松さん、よろしくお願ひします。

さて、最初から提案になってしまうかもしれませんが、私がこのところ思っていることであり、今回の県社会人連盟の会長就任に合わせて皆さんにお話をしようと思っていることをお伝えしたいと思っています。

JFL(日本フットボールリーグ)は社会人のリーグですが、旧JFL(1992～98年、ジャパンフットボールリーグ)を含めて大学のチームが加入するようになりました。最初は国士舘大学、静岡産業大学、そして今では流通経済大学があり、埼玉からは東京国際大学のFC TIU(関東2部)が追随しようとしています。この状況を見て、このままでいいのか?と考えているところです。JFLも関東サッカーリーグも県社会人リーグも「社会人リーグ」なんです。そこが今、大学に浸食されているのです。

埼玉県内では東京国際大学が県1部のFCドルフィンズをはじめ、多くのチームが登録しており、植松さんが指導している尚美学園大学のクラブフェニックスは県1部、駿河台大学は県3部リーグ、共栄大学は春日部市リーグに加盟しています。

何が問題かという、社会人リーグの選手たちは1年ごとに間違いなく一つ年をとるのですが、大学のチームは選手が入れ替わるだけで年を取らないのです。学年が上がれば、トップチームに行ってしまうのですから。そういう問題に対して、県社会人連盟としては自分たちではどうしようもできないグラウンドをお借りしていることから「これでよし」とするのはいかがでしょうかということです。

個人的な希望としては、大学側でBチームを県大学リーグの2部に入れてもらい、Cチームを3部に入れるというリーグを作ってもらえるといいなと思っています。

あと自治体については、さいたま市役所は県2部リーグ、川口市役所、所沢市役所、川越市役所は市民リーグに入ってもらっています。

要は、社会人と大学の関係を考え直す時期に来ているのかな

と思うのです。社会人連盟としてはグラウンドをお借りして“おんぶにだっこ”状態でいいのか?大学連盟としても学生たちが試合できる場を求めるならば、自分たちでリーグを改革する必要があるのではないかと思います。

社会人連盟としては、いきなり大学チームを除外することは無いのですが、「〇年度からは1年生の社会人登録はできません」とすれば、4年後には社会人リーグから大学のチームは無くなってしまおうことでしょうか。

**植松** その考えは、私自身としてはクラブフェニックスがお世話になっていますから、理解できています。以前から、大学に入学しながら、そのまま社会人リーグに登録するというのはおかしいと思っていました。大学のチームとしても、選手を育てるという面で県社会人連盟に“おんぶにだっこ”していただいているのです。

別の視点から考えると、大学としては少子化で複数のチームが都内の本校に戻ることに、埼玉から離れることになっていきます。また県内の大学でも部員数が少ないとのことでリーグ戦への参加を辞退しているところもあります。全体的に見れば、チーム数が減っているというのが現状です。その反面、部員を多く抱えている大学もある訳で、埼玉県内の大学だけではなく関東の都県でどうすればいいのかと模索しているところです。そこで社会人連盟に登録させてもらっていますが、それは本来の姿ではないのです。

学生たちが大学を卒業して、社会人チームに入ってくると社会人リーグも活性化すると思いますし、もっと繋がりができると思うのですが、現実的にはまだまだですね。

## 両者が“おんぶにだっこ”状態

—まず大学ですが、関東の大学はBチームを1リーグ(インディペンデンスリーグ)に参加させて、運営を含めて独自に強化しています。大学によっては1リーグで十分ということもあるでしょうし、1リーグだけでは足りないということもあって、社会人リーグに登録していますね。そして社会人連盟としては、やはりグラウンドの問題ですね。市町村で天然芝や人工芝のグラウンドを所有しているところは少なく、あっても貸し出しをしているところはさらに少ないのが現状です。それが大学の恵まれた人工芝グラウンド——雨にも強いというのは、非常に心強い味方ですね。どちらにしても、“おんぶにだっこ”というよりも“痛しかゆし”というところでしょうか。

**富岡** 近年、社会人リーグに加わっている東京国際大学や尚美学園大学のサッカー部OBが、県内の関東リーグや県リーグのチームに登録して活躍してくれています。以前はそういうことがありませんでしたから、県社会人連盟から見たら大きなプラスに



彩の国カップ・会長杯決勝 ACアルマレッザ飯能 vs FC TIU

なっています。実際、川口 SC にも尚美学園大学の OB が加入してくれていますので、2つの大学に関しては社会人チームに恩恵を与えてくれています。またそれ以外の大学でも、積極的に社会人チームと練習試合をしてあげていることに感謝しています。それ以上に大学を卒業してもサッカーを続けてくれるというのはありがたいことなのです。

その反面で、毎日のように練習している大学生チームを相手に大敗してしまう社会人チームがあり、モチベーションが下がってしまうという話も聞かれます。実際「大学生とはやりたくない」というチームもあります。こちらとしてはチームそのものが無くなってしまふようでは困るのです。

そこで、一つの落としどころとして考えているのは、県社会人リーグを「1種リーグ」にするということです。これだと社会人チームにとっては強化になると思うのです。ただ、これを関東社会人連盟、全国社会人連盟が認めてくれるかどうか。今後、関東サッカーリーグも“大学リーグ”になる可能性があるのですから、関東も全国も真剣に考えなければならない問題です。

**植松** その話は理解できますし、「1種リーグ」という提案は面白いと思います。

一昨年まで年明けに「県1種選手権大会」を開催していました。これは悪くない試みでしたが、開催する時期的な問題もあり、無くなってしまいました。それだけに、リーグそのものを変えて、社会人と大学が交流できるというのは魅力的です。

大学としては「ここならば選手を見てもらえる」という社会人チームがあるのはありがたいものです。手を取り合って、ではありませんが、お互いで自分たちのウィークポイントを埋められるといいですね。

## 県から関東、そしてJFLへ

—富岡さん、この話は県社会人連盟では話題に上がっていることでしょうか。

**富岡** まだ、あまり話題にしていません。現状としてはグラウンド面で大学さんにお世話になっていることから「大学も社会人登録してもいいじゃないか」という人が多いと思われます。しかし、グラウンドを理由にして登録してもらうというのはおかしな話です。

また、自分が20歳の頃と今の20歳の大学生を比べると、Bチームの一員だとしても、こうやって試合ができる場があって楽しいだろうと思います。でも関東大学リーグのことを考えると、社会人登録ではなく大学登録でいて欲しいのです。

あと、この10年で埼玉県から関東リーグに昇格して定着しているチームが大成シティ坂戸FC（関東2部）だけなんです。アルマレッザ飯能（今年からアルマレッザ入間）、与野蹴魂会やパイオニア川越が昇格しましたが、県リーグに戻っています。難しいのです。そんな中、大学生チームは補充ができますから、どんどん関東リーグに昇格してくれるのはいいのですが、大学生チームばかりが関東リーグに行くというのも問題です。

—振り返れば、10年前には県社会人連盟の役員の方々と大学の監督やコーチが顔を合わせる場はありませんでした。



天皇杯埼玉県予選準決勝 東京国際大学 vs ACアルマレッザ飯能



富岡孝三氏（左）と植松孝博氏（右）

**植松 富岡** そうですよ。

**富岡** ここまで県社会人連盟と大学がやってきたことは間違っていないと思うのです。共栄大学が春日部市民リーグに参加してくれたので、我々としては共栄大学のことを知るようになったのですから。

そういえば、尚美学園大学の監督に加茂さん（周氏。元日本代表監督）が就任してから「尚美って何？」という話になって、そこから県の大学は活性化されたんですね。県の大学チームには、もっと関東大学リーグに昇格してほしいですね。

—県社会人連盟からは、このようにいろいろな要望が出てきました。逆に大学連盟側から県社会人連盟に対して要望はありますか？

**植松** 関東大学リーグへの昇格の話が出ましたが、社会人チームにも関東サッカーリーグの1部、2部にもっとチームが昇格して、定着してほしいですね。そしてJFLを目指してほしいと願っています。県からであれば、大学チームではなく、社会人のチームがJFLに行ってくれると応援したくなりますね。それは大学側から言えば、やはり卒業していく選手たちを見てもらいたいですし、大学生だけでなく県内の子どもたちの目標になるからです。レッズ、アルディージャの後の埼玉はどうか？という話をよく耳にしますが、純粋な社会人チームが続いて行ってほしいものです。

ただ社会人チームからは、補強がスムーズにできないという声を聞きます。実際、学生は仕事ありきでチームを選んでいるのが現状です。こちらとしては、サッカーを続けるのであれば挑戦してほしいと願っていますが、なかなかままならないところで。大学で活躍した選手が社会人チームでも活躍してくれると、県全体的に盛り上がってくれると思いますね。

**富岡** 就職の斡旋をしているチームは強化できていますし、大学と繋がっている社会人チームも強化できていますね。

県社会人連盟としては、埼玉県からJFLに昇格できるチームが出て来てほしいと願っていますし、それが目標です。これは1種としてもそうだと思います。そこで思うのは、チーム強化を考えたときに、今の社会人チームだけの県リーグからではJFLは遠いと思いますし、大学生チームを混ぜたほうが県リーグから関東サッカーリーグに上がるチームは増える可能性があるということです。

—1種のチームには、子どもたちに夢を持たせる責任があると思います。

**富岡** 人を育てる義務があると思いますし、まだ可能性のある選手を拘うという役割もあります。

**植松** 富岡さん、ご指導ください。

**富岡** いやいや、こちらこそ。

—また、こういう場を持ちましょう。引き続き、よろしくお願ひします。



# 大会記録●県外大会

## 4種

### JA全農杯チビリンピック2016小学生8人制サッカー大会 in 関東

3月19日、20日 前橋総合運動公園他

#### ●予選リーグ

順位	Bグループ	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	大宮アルディージャジュニア	7	2	1	0	4	1	+3
2	ファナティスコ	5	1	2	0	3	2	+1
3	鹿島アントラーズつくば	3	1	0	2	1	2	-1
4	府中新町FC	1	0	1	2	1	4	-3

順位	Cグループ	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	JACPA東京FC	7	2	1	0	6	0	+6
2	レジスタFC	7	2	1	0	6	1	+5
3	ばらきSC	3	1	0	2	2	8	-6
4	Uスポーツクラブ	0	0	0	3	2	7	-5

#### ●1位・2位トーナメント

準々決勝 大宮アルディージャジュニア 1-0 横浜F・マリノスプライマリー  
 ともぞうサッカークラブ 1-4 レジスタFC  
 準決勝 ヴァンフォーレ甲府U12 1-1 大宮アルディージャジュニア  
 JACPA東京FC 3-1 レジスタFC  
 決勝 大宮アルディージャジュニア 1-1 JACPA東京FC  
 (1延長0)

※大宮アルディージャジュニアが本大会へ出場します。

### JA全農杯チビリンピック2016小学生8人制サッカー大会

5月3日~5日 日産スタジアム他

#### ●1次ラウンド・グループA

松本山雅FC 0-4 大宮アルディージャジュニア  
 北海道コンサドーレ札幌 1-2 大宮アルディージャジュニア  
 ディアブロツサ高田 1-4 大宮アルディージャジュニア  
 屋島FC 0-6 大宮アルディージャジュニア

※大宮アルディージャジュニアがグループ1位

#### ●決勝トーナメント

準決勝 大宮アルディージャジュニア 2-2 ソレッソ熊本U12  
 5PK4  
 決勝 大宮アルディージャジュニア 2-0 JACPA東京FC

※大宮アルディージャジュニアは初優勝



優勝 大宮アルディージャジュニア (写真提供: 大宮アルディージャ)

## 女子

### キヤノン ガールズ・エイト 第13回JFA地域ガールズ・エイト(U-12)サッカー大会

3月5日、6日 ひたちなか市総合運動公園陸上競技場他

#### ●1次リーグ

順位	グループA	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	茨城Tiara U-12	7	2	1	0	8	0	+8
2	埼玉県U-12 選抜SP	7	2	1	0	2	0	+2
3	東京都選抜 YURI	1	0	1	2	0	3	-3
4	神奈川県TC U12 リヤン	1	0	1	2	0	7	-7

順位	グループC	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	埼玉県U-12 選抜DX	7	2	1	0	5	3	+2
2	千葉県トレセンU-12 イエロー	6	2	0	1	6	3	+3
3	東京都選抜 AYAME	3	1	0	2	2	4	-2
4	群馬県トレセン女子U12 レッド	1	0	1	2	2	5	-3

順位	グループD	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	神奈川県TC U12 バンデ	9	3	0	0	27	0	+27
2	東京都選抜 SAKURA	6	2	0	1	21	2	+19
3	埼玉県U-12 選抜UT	3	1	0	2	4	16	-12
4	千葉県トレセンU-12 ネイビー	0	0	0	3	0	34	-34

順位	グループE	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	埼玉県U-12 選抜TC	9	3	0	0	19	0	+19
2	栃木県選抜U-12「海」	4	1	1	1	2	4	-2
3	千葉県トレセンU-12 ピンク	3	1	0	2	1	6	-5
4	茨城Flora U-12	1	0	1	2	1	13	-12

#### ●2次リーグ

順位	1組	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	埼玉県U-12 選抜TC	6	2	0	0	5	3	+2
2	千葉県トレセンU-12 イエロー	3	1	0	1	6	6	±0
3	茨城Tiara U-12	0	0	0	2	4	6	-2

順位	3組	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	栃木県選抜U-12「海」	4	1	1	0	5	4	+1
2	東京都選抜 TSUBAKI	4	1	1	0	3	2	+1
3	埼玉県U-12 選抜DX	0	0	0	2	2	4	-2

順位	4組	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	東京都選抜 SUMIRE	6	2	0	0	5	0	+5
2	神奈川県TC U12 バンデ	3	1	0	1	4	2	+2
3	埼玉県U-12 選抜SP	0	0	0	2	0	7	-7

#### ●決勝トーナメント

準決勝 埼玉県U-12選抜TC 2-0 東京選抜 SAKURA  
 決勝 埼玉県U-12選抜TC 0-0 東京選抜 SUMIRE  
 (3PK2)

### 第27回全国レディースサッカー大会

3月19日~21日 時之栖スポーツセンター

#### ●予選リーグ

順位	グループC	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	UILANI FC (関東1/埼玉)	9	3	0	0	12	0	+12
2	モゼーラ鹿児島(九州2/鹿児島)	4	1	1	1	3	1	+2
3	長野フレンズ(北信越/長野)	4	1	1	1	2	5	-3
4	水沢ユナイテッドFC(東北1/岩手)	0	0	0	3	0	11	-11

順位	グループD	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC BB (関東4/埼玉)	7	2	1	0	5	3	+2
2	鳥取レディース(中国2/鳥取)	6	2	0	1	5	3	+2
3	愛媛県選抜(四国2/愛媛)	4	1	1	1	3	4	-1
4	清水FCレディース(東海/静岡)	0	0	0	3	5	8	-3

#### ●1位トーナメント

1回戦 UILANI FC 0-0 FC BB  
 (4PK2)  
 3位決定戦 トナカレディースFC(九州1/福岡) 2-1 FC BB  
 決勝 東京アルテミスSC(関東2/東京) 0-0 UILANI FC  
 (0PK3)

※UILANI FCは初優勝

## インフォメーション

### ●技術委員会より

#### 2016年度 JFA 47FA インストラクター紹介

高島 敏之	桑原 一郎	笹川 智久	菊原 伸郎
石崎 聡之	市川 真史	大石 裕弘	岡本 武行
伊東 真吾	河合 一武	川本 竜史	小牧 裕介
小松 工	小茂田佳郁	佐藤 勝彦	猿山 誠
塩田 憲一	鹿野 守	高田 優二	高橋 清史
土橋 正樹	西川 誠太	橋本 政広	福田 直史
前田 秀樹	元井 淳	山崎 稔	山崎 茂樹
山原 伸治	山本 大	吉田 巡	村松 浩

#### 2016年度(公財)日本サッカー協会公認C級コーチ養成講習会

- ① 7月3日、9日、10日、16日、18日、30日、31日の7日間
- ② 8月5日、6日、7日、12日、13日、14日、15日の7日間
- ③ 予定：11月19日、20日、26日、27日、12月4日、10日、24日の7日間

受講資格/2016年3月31日現在、満18歳以上であり、埼玉県登録チームで指導をされている方または、埼玉で指導者を目指している方。

定員/各コース40名(受講者が20名未満の場合は開催中止となります。)

会場/① 埼玉スタジアム4G(7/9 鴻巣高校)

② 尚美大学G

③ 埼玉スタジアム4G

受講料/¥33,000

#### 2016年度(公財)日本サッカー協会公認D級コーチ養成講習会開催要項

1コース：6月12日、19日の2日間(通い型)

2コース：7月16日、23日(土)の2日間(通い型)

3コース：10月22日、30日(日)の2日間(通い型)

受講資格/2016年3月31日現在、満18歳以上であり、埼玉県登録チームにおいて指導をされている方または、埼玉で指導者を目指している方。

定員/各コース40名(受講者が24名未満の場合は開催中止となります。)

会場/1コース・3コース：埼玉スタジアム第4G及び会議室

2コース：鴻巣高校及び鴻巣上谷サッカー場

受講料/¥15,000

2016年度 JFA 公認指導者 リフレッシュ研修会は順次開催しております。

詳細は SFA 公式ウェブサイトでご確認ください。

### ●審判委員会より

埼玉県サッカー協会の登録審判員で、技術と資質の向上に意欲がある方でしたらどなたでも参加できます。事前の申込は必要ありません。審判手帳をご持参の上、直接会場へおいでください。雨天でも基本的に行います。また、インストラクターの方のご参加もお待ちしております。

レフェリートレセン予定一覧				
3月5日(土)	シーズン開幕前研修会	ソニックシティ	14:30~17:00	プレゼンテーション他
4月16日(土)	レフェリートレセン	道満Aグラウンド	10:00~12:00	実技
5月14日(土)	レフェリートレセン	道満Aグラウンド	10:00~12:00	実技
6月11日(土)、12日(日)	上級審判員研修会	未定	未定	インターハイ予選2回戦 ラウンド16
7月2日(土)	レフェリートレセン	上尾南高校グラウンド・体育館	10:00~12:00	実技
8月	レフェリートレセン	各試合会場	-	実技研修(高校選手権予選)
9月24日(土)	レフェリートレセン	道満Aグラウンド	10:00~12:00	実技
10月15日(土)、16日(日)	強化審判員研修会	未定	未定	未定
11月3日(木・祝)	レフェリートレセン	上尾南高校グラウンド・会議室	10:00~12:00	実技
12月3日(土)	レフェリートレセン	未定	未定	講演会
1月21日(土)	レフェリートレセン	上尾南高校体育館(予定)	17:00~19:00	実技
2月	レフェリートレセン	各試合会場	未定	実技研修(高校新人大会)
3月11日(土)	シーズン開幕前研修会	未定	未定	未定

### ●JFAガールズサッカーフェスティバル開催

2月7日、埼玉スタジアム第4グラウンドにて「JFAガールズサッカーフェスティバル」が開催されました。75人もの子どもたちが集まり、クリニックとゲームを楽しみました。いい環境で練習をした経験は、モチベーションにも繋がることでしょう。来年も多くの子どもたちに参加してほしいと願っています。



### 編集後記

まずは、平成28年熊本地震でお亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りすると同時に、被災された皆様が一日も早く安全・安心な生活に戻れることを願っております。現状、熊本だけでなく大分にも被害が広がり、大きな余震が続いています。熊本県サッカー協会のホームページを拝見すると様々な試合、事業が中止や延期を余儀なくされており、心が痛みます。東日本大震災もそうでしたが、災害は他人事ではないのです。サッカーができる幸せと、応援できる幸せを感じながら、熊本・大分の皆さんにできることをしていきたいものです。

実際にサッカーどころではないと思いますが、ストレスが身体を蝕んでいきます。エコノミクスラ症候群とも呼ばれる肺塞栓(そくせん)症によって亡くなられた方もいらっしゃいますし、深刻な状況になっていま

す。こういふときだからこそ、少しでも体を動かして活力を蓄えてほしいものです。これからが長期戦であり、タフなハートと体力が求められることでしょう。そんな中、巻誠一郎選手(ロアッソ熊本)が自ら経営しているフットサルコートを無料開放したというニュースが入ってきました。ストレスがたまった子どもたちに活用してもらい、スポーツを楽しむ子どもたちの笑顔で熊本を元気にしてほしいものです。

さて、リオデジャネイロ五輪の組み合わせとロシアワールドカップのアジア最終予選の組み合わせが決まりました。代表チームの活躍は、復興の後押しとなるはず。応援することで活力も生まれると信じています。さあ、埼玉からしっかり盛り上げていきましょう!(荒川)